

第189回大阪市外郭団体評価委員会

令和4年2月15日

開会 午後2時00分

【小山法人担当課長】 定刻になりましたので、第189回大阪市外郭団体評価委員会を始めさせていただきます。

私は、本委員会の事務局を務めております総務局行政部法人担当課長の小山でございます。

それでは、議題に入りたいと思いますので、以後の議事進行につきまして、野村委員長をお願いいたします。

野村委員長、どうぞよろしくお願いいたします。

【野村委員長】 本日は、委員全員にご出席いただいております。大阪市外郭団体評価委員会規則6条2項により、会議が有効に成立しております。

本日の議題、1から4の外郭団体4団体の令和3年度経営評価については公開で行います。

それでは、最初の議題について、事務局からご説明をお願いします。

【小山法人担当課長】 ご説明いたします。

教育委員会事務局が所管する外郭団体である公益財団法人大阪国際平和センターの令和3年度経営評価につきまして、大阪市外郭団体等への関与及び監理事項等に関する条例第7条第4項の規定に基づき、諮問をいたします。

内容につきましては所管所属からご説明させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【野村委員長】 それでは、所管所属からご説明をお願いします。

【教育委員会事務局】 教育委員会事務局生涯学習部長の飯田でございます。

大阪国際平和センターの令和3年度事業経営評価につきまして、まずは2ページ以降の様式2の取組ごとの評価についてご説明させていただいた後、様式1の総合的評価について説明させていただきたいと存じます。

まず、諮問書を2枚めくっていただきまして、2ページでございます。取組1をご覧ください。

最上段の中期計画の欄でございますが、中期計画におきましては、大阪市小学校長会や

中学校長会等において、平和学習の場としてピースおおさかの利用を呼びかけるとともに、来館率の低い区の小学校長会などに働きかけを行っていくことにより、小中学校の来館率を高めていくよう取り組むとされているところでございます。

次の年度計画達成状況の欄をご覧ください。年度計画におきましては、小中学校の校長会などでPRの実施、また教員等の研修会等の誘致に取り組むとされておりましたが、実績といたしましては、校長会等で25回のPR、また延べ5日間の教員初任者研修等の誘致を実施されました。

それらによりまして、指標Ⅰ、大阪市立小学校全校に対する来館率が令和3年度実績45.5%、指標Ⅱ、大阪市立中学校全校に対する来館率が令和3年度実績20.8%となりまして、それぞれの令和3年度の目標である、小学校31%、中学校15%を大幅に上回ることができたところでございます。

上から3つ目の、外郭団体の自己評価でございますけれども、団体の自己評価といたしましては、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けましたが、積極的にPR等を行うことで目標を達成することができました。ただし、今年度来館いただけなかった学校にも次年度以降に来館してもらえよう、引き続き積極的にPRを行うとされております。

一番下の、市の審査の欄でございます。本市といたしましても、以上の団体の自己評価はおおむね妥当であると考えます。新型コロナウイルス感染症の影響がどこまで続くか、まだ不明なところもございますけれども、次年度も目標を達成できるよう、小中学校等へのPRの強化等を求めていると考えておるところでございます。

続きまして、3ページ、取組2でございます。

最上段の中期計画におきまして、来館した大阪市立の小学校に対してアンケート調査を実施し、「ピースおおさかが平和学習の場として役立ったのか」という問いに対して、4段階中最上位の「役立った」と回答した割合85%を、計画の期間中、維持するように努めることとされております。

上から2つ目の、年度計画達成状況の欄をご覧ください。年度計画におきましては、常設展示や特別展示の開催、また施設・設備の改修等によりまして見学時の快適性を図るとされておりましたが、実績としまして、それらの実施とともに、コロナ禍で広島・長崎への修学旅行に行けなかった多くの学校の訪問を受けまして、ピースおおさかの方で折鶴の寄贈、また平和の誓いの宣言、歌を歌うなどの平和セレモニー等の実施にも協力をしたところでございます。

それらのことも踏まえまして、アンケートでは「ピースおおさかが平和学習の場として役立った」と回答した割合につきましては、令和3年実績といたしまして93.5%となりまして、目標の85%を達成することができております。

上から3つ目の、外郭団体の自己評価の欄でございますが、団体の自己評価といたしましては、コロナ禍においても混雑なく見学や映画鑑賞ができるように、予約段階からの調整を行うとともに、天王寺動物園と連携しました「どうぶつのいのちとへいわ」という、児童・生徒の非常に関心の高い特別展の開催、こういったことによりまして高い平和学習到達度を達成することができました。次年度以降についても、学校のニーズを把握し、改善・工夫を図るとされているところでございます。

一番下の、市の審査の欄でございます。本市といたしましても、以上の団体の自己評価は妥当と考えております。次年度も継続して目標を達成できるよう、小中学生のニーズの把握に努めつつ、入館曜日や時間の調整も含めました感染防止対策を行いながら、来館促進を図ることを求めていると考えておるところでございます。

続きまして、4ページ、取組3でございます。

最上段の中期計画におきまして、ピースおおさかの企画事業の参加者に対しアンケート調査を実施し、「今回参加していかがでしたか」という問いに対して、5段階中上位2つの「とてもよかった」「よかった」と回答した割合75%を、計画期間中、維持するよう努めていくとしております。

上から2つ目の、年度計画達成状況の欄をご覧ください。年度計画におきましては、次の世代に戦争の悲惨さや平和の大切さを継承していくために、魅力ある事業を実施し、情報発信に努めるとし、実績といたしましては平和祈念事業を4回実施いたしました。そういったことによりまして、アンケートで「企画事業に参加してとてもよかった」「よかった」と回答した割合が92.7%となりまして、目標の75%を達成することができました。

上から3つ目の、外郭団体の自己評価の欄をご覧ください。団体の自己評価としましては、平和祈念事業の募集人数に制限がありましたけれども、予定していた事業、4回を実施することができ、参加者から高評価を受け、目標を達成することができました。特に、9月には大阪国際平和センター開館30周年記念事業といたしまして、記念式典と30年の歩みについての講演会を、また12月には太平洋戦争開戦80年祈念事業として、平和寄席を実施いたしました。

一番下の、市の審査の欄をご覧ください。本市といたしましても、以上の団体の自己評

価は妥当と考えております。節目の年でございます今年度は、事業が全て計画どおりに行われ、来館者満足度75%以上を達成いたしました。来年度も今年度の成果を引き継ぎ、高い満足度の事業の実施を求めていきたいと考えております。

最後に、以上ご説明しました各取組の評価を踏まえました総合的な評価についてご説明いたします。1ページの様式1にお戻りいただけますでしょうか。

上段の中期目標の欄でございますが、当該外郭団体の事業経営を通じて達成しようとする本市の行政目的又は施策の具体的な内容につきましては、特定の歴史観や考え方に偏らず、中立的（中立性の確保）に事業を実施していくこととともに、大阪中心、子ども目線で平和を自分自身の課題として考えられるような展示を行い、もって大阪市内に居住する小中学生をはじめとする多くの市民に戦争の悲惨さや平和の尊さを伝え、平和を願う豊かな心を育むこととしております。

中期目標期間は、令和2年4月1日から令和7年3月31日の5年間となっております。

中期目標の期間終了時において、(1)の行政目的又は施策によって実現しようとしている状態は、中期目標期間、大阪市内に居住する小中学生をはじめとする多くの市民に、大阪中心、子ども目線で平和を自分自身の課題として考えられるような展示を通して戦争の悲惨さや平和の尊さを伝え、平和を願う豊かな心を育む機会が提供されている状態としております。

下段の、当該事業年度の評価をご覧ください。

外郭団体の自己評価、当該事業年度の指標及び目標に基づく評価を踏まえた団体の総合的な評価につきまして、令和3年度は昨年に引き続きまして新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた1年でございましたけれども、開館30年にふさわしい企画事業等の実施、また施設の快適性の確保に取り組むとともに、教員等の平和・人権研修の積極的な誘致を行うことによりまして、年度目標を達成することができたと評価されております。

最終目標達成に向けた課題及び課題解消に向けた次年度以降の取組については、新型コロナウイルス感染症の変異株の流行など、現時点では不確定要素が大きく、来年の来館状況を見通すことがなかなか困難な面もございますけれども、財団の自主的な努力で達成することができる学校関係へのPR、またアンケートなどで把握した来館者のニーズに沿った取組、こういったことを積極的に進めていくとして、最終目標達成の見込みはア、順調とされているところでございます。

本市の総合的な評価といたしましては、令和3年度は昨年度に引き続き新型コロナウイ

ルスの影響が大きくあった中で、休館や事業の縮小など、団体の活動に大きな制約がございましたけれども、開館30周年の節目の年ということもございまして、多彩な平和祈念事業や特別展を実施することによりまして全ての年度目標を達成し、戦争の悲惨さ、平和の尊さを伝え、平和を願う豊かな心を育む機会の提供に大きく貢献したと評価できると考えております。

説明は以上でございます。よろしくご審議のほどお願いいたします。

【野村委員長】 ありがとうございます。

では、委員の皆様からご意見やご質問など、ありましたらお願いします。

【水上委員】 委員の水上です。よろしくお願いいたします。

全ての指標で目標を達成されているということで、その点、何も問題はないかと思うんですけれども、うまくいっている理由についても検証すると、それも有意義かと思うので、1点お伺いしたいんですが、取組3でアンケート、かなり高い数値が出ていると思うんですけども、どれくらいの回答数があつたかお分かりになるでしょうか。

【教育委員会事務局】 コロナで非常に参加者が限られている中ということもございしますので、総トータルといたしましては327件でございます。その中で、「とてもよかった」が193、「よかった」が110と、そういう結果になっております。

【水上委員】 ありがとうございます。

近年の中でも、この満足度、非常に高い数値、水準かと思うんですけれども、今年度、特に何か変わった取組をされたとかということはおありですか。

【教育委員会事務局】 そうですね、平和寄席は、毎年やってきているものかと思いますが、やはり開館30周年ということで、30年の歩みを振り返るということと、また時々銘板も追加をいたしまして、そういったところでの記念式典が非常に大きな意義があつたのかなというふうには思っております。受け止められ方も非常に肯定的だったのかなと思います。

【水上委員】 承知しました。ありがとうございます。

【佐藤委員】 委員の佐藤です。よろしくお願いいたします。

ニーズの把握というふうな記述があるんですけれども、アンケートの中で「満足していない」というふうには、「している」というふうには回答されてない方もいらっしゃると思うんですけど、その辺の分析とかはどのようにされているのでしょうか。もっと上げるというか、満足度が上がるような施策とか、そういうふうなことでこのアンケートをどういうふう

利用されているかというのを教えていただけますでしょうか。

【教育委員会事務局】 そうですね、アンケートの方が小学校からとっているアンケートと、一般の来館者の方のアンケートとありますけれども、小学校のアンケートにつきましては、アンケートから読み取れることだけではなくて、校長会等に出かけて行ってご意見もお聞きするということもございますし、また教員の方の研修の場といったところでご意見を聞いたりというところで、いろいろと反映をさせているのかなというふうに思います。

一般の方のアンケートは、やはりその場でということになってしまいますので、あまり詳しくその内容を深く掘り下げるところにまではちょっと至っていないのかなとは思いますが、自由記述のご意見などを参考にさせていただいているというところがございます。

【佐藤委員】 ありがとうございました。

【野村委員長】 今のこととの関係なんですけれども、この満足しましたという上の2つの段階ですか、その回答の割合が、小学校の方は一番最上位が85%が目標ということで、もう1つの一般の企画事業の方は上2つということだったと思うんですけど、それぞれこれを選ばなかった方についてはどんな理由だとかいうことはアンケートに記載があったりするのでしょうか。

【教育委員会事務局】 私の方から答えさせていただきます。

基本的には、選ばれなかった方の意見については、アンケートとして自由記述欄とかがありますので、集約はさせていただいています。その意見については、当然のことながら、今後に生かしていかなければならないと考えております。そういったような状況でございます。

【野村委員長】 ありがとうございます。

ほかに委員の皆様からありますでしょうか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

【野村委員長】 では、野村から1点だけお伺いしたいんですけども、取組1に関してなんですけれども、小中学校に対する来館率というところで、来館率を維持するためにPR活動なんかをされているということだと思うんですけど、校長会など25回のPRを行いというところの、この25回という回数は、コロナ前と比較するともうほぼコロナ前の水準なのか、それとも結構減っているのか、どういう数字になるのでしょうか。

【教育委員会事務局】 恐らくコロナ前水準を維持しようと、校長会が開かれますので、そこに自主努力として維持しようという形で回数をキープといいますか、維持しているような状況になっていると思います。

【野村委員長】 そうすると、コロナ前も大体、期間中に、この25回ってありますけど、この程度の回数のPR機会があって、それを今年度についても維持された、その維持というのは達成目標の維持という意味なのか、PR回数の維持という意味なのかちょっと分からなかったんですけど。

【教育委員会事務局】 過去の数字をきっちり覚えているわけじゃないんですけども、この25回というのは積極的に取り組んだ形での維持をしていくということで取り組まれているという理解です。

【野村委員長】 そうすると、ちょっと過去の数字と比較という意味ではよく分からないということになりますかね。分かりました。

ただ、この指標でいくと、ずっと小学校85%、中学校25%というの、来年度からずっとこれを維持させていくというのが指標になっていますので、そうすると例年来てくださっているところは、割と続けて来てくださっているというような理解をしておけばよろしいんでしょうか。結構新たにこのPRによって増えたり減ったりというのがあるものなんですかね。

【教育委員会事務局】 基本的には例年来られているというところが多いとは思いますが、やはり来られてない区を重点的にというようなところでのPR活動もしておりますので、新たにといいますか、隔年であったりとかそういう形にはなるかと思っておりますけれども、新たなところも来ていただいているのかなというふうには思っております。

ここに挙げた数字は大阪市立の学校だけになっているんですけれども、学校関係のPRということであると、私立等も含めまして非常に幅広くPRをしてきているというのがこの間の取組かと思っておりますので、コロナの影響でどうかというところはちょっとあれなんですけれども、数的に言うと、むしろ増えているという、積極的にコロナで減っている分を取り戻さないといけないというところもありますので、むしろ増えているというのが現状かというふうに思っております。

【野村委員長】 分かりました。ありがとうございます。

ほかはよろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

【野村委員長】 それでは、質疑応答については以上で終了とさせていただきます。ありがとうございました。

それでは、今の経営評価の結果と経営評価の審査の結果についての答申の取りまとめですけれども、特に意見はよろしいでしょうか、なしで。

(「はい」と呼ぶ者あり)

【野村委員長】 では、意見なしで取りまとめをお願いいたします。

【小山法人担当課長】 はい。また文言等のご確認をいただけるようにいたします。